

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102401
法人名	有限会社 ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの家
所在地	愛媛県松山市北斎院1072-1
自己評価作成日	平成22年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 11 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「その人らしく有り続けるために」を念頭に置き支援を行っている。②健康を保ち楽しんで生活をしていただけるよう3B体操や音楽、お出かけや農作業を取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

企業の社員寮であった建物の構造を活かし、利用者一人ひとりが自分の生活を楽しむことのできる長屋のような雰囲気をもっている。建物の一部に併設しているデイサービスセンターが利用者にとって地域の方との出会いの場となっている。協力医療機関と連携体制がしっかりしており、健康管理についてはもちろん、終末期におけるケアについても具体的なマニュアルと経験をもっており、終の住家となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの家

(ユニット名) 根っこユニット

記入者(管理者)

氏名 菅 浩司

評価完了日 平成 22 年 10 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型のグループホームを目指し地域で行われる様々な行事にも参加している。管理者と職員は理念の共有をしている。</p> <p>(外部評価) すみれグループの理念をふまえ職員のアンケートを基にすみれの家の理念を掲げたが、共有と実践には至っていない事に気づき意識づけようとしている。</p>	職員全員で話し合いを重ね、利用者一人ひとりのその人らしさを大切にし、笑顔のあふれるホームにしたいという思いを盛り込んだ理念を作成し、日々の実践につなげていくことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域で開催される運動会・市民大清掃・盆踊り・地方祭などに参加し、入居者様と共に交流を図っている。</p> <p>(外部評価) 町内会とは盆踊りや敬老会、秋祭りなどの行事を通してつながりは始めている。さらに散髪屋を利用するなど、日常の生活の中で顔の見える関係ができるよう努力している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 毎年津田中学生の職場体験学習の場としてホームを提供させて頂いている。その際は入居者様とふれあい、障害を学ぶ場としても活かされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は定期的開催されており、家族様/地区の委員様/市町村の担当者様を交えて屈託のない話し合いの場となっている。ご家族様の内情の吐露もみられ、除々に良い会議となっている。	
			(外部評価) 運営推進会議マニュアルを作成し、要綱に基づきイベントへの参加にとどまることなく、地域や家族とのつながりを大切にしながら、年間議題を作成し2か月に1回開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にも参加して頂き協力関係を深めるよう努力している。	
			(外部評価) 書類提出時の機会を逃さず、担当者と顔見知りの関係をつくり、情報交換や相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間等、ベッドで休んで頂く時や転倒の恐れがあると思われる時はご家族様に同意書を頂くようにしている。又日中(AM8:00~PM17:00)入居者様に危険が及ぶと判断した際は止むを得ずユニット入口を一時的に施錠する事がある。ユニット長会議で毎回議題にし、身体拘束を排除する取り組みを行っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアは介護の基本である事を認識し、ミーティング時に具体的な話し合いを行い、職員全員で共有している。建物の構造上、見通しが悪く居室の出入りに配慮の必要な利用者の居室にはセンサーをつけるなど、利用者の状態に応じて配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 更衣時に肌の露出があるため身体の状態を観察し申し送りを行い異常の早期発見に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 対象者はいないが、必要性について全員が理解し支援について話し合っていく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者様及び家族様と管理者、内容によっては医療関係者と説明を行い十分な理解同意の上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者様及び家族様のご意見ご要望は、貴重な事と受け止め、どのような事でもひとつひとつお答えできるよう日々のミーティングなどで情報の共有を行っている。またご返答のタイミングはスピードを重視している。 (外部評価) 運営推進会議への参加を促したり、来訪時には必ず声かけをおこない、加えて毎月担当職員が手書きで近況報告を行い信頼関係をつくる事に配慮しているので、少しずつ要望や意見が出はじめている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者がユニットを訪問し、職員の意見や提案を吸い上げ社内メールや電話にて統括部長に相談している。また2週間に一度グループ全体での会議の際にも同様な事を行っている。返答を確実に行うことで信頼関係の構築を図っている。 (外部評価) ユニットではいつでも誰もが提案しやすい雰囲気をつくっており、ユニット長が参加するリーダー会で、職員からの意見を集約している。法人への提案などは、2週間に1回の法人全体の管理者会やメール、電話で伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個別職能レベルを把握できるよう定期的に面談を行ったりまた勤務シフト作成時には労働パターンを考慮したり、個人の希望休をできるだけ(1シフトに2回程度)反映できるよう考慮している。今後も更に向上できるよう取り組んでいく。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修についてその都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよう人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の相互研修に参加したり、その都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよう人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人様が安心して生活していけるよう関わりを多く持ち良好な関係作りを行っている。また利用前訪問調査表を基礎知識としながら実際の状態との差を考えご本人様の求める「支援」必要な「支援」に擦り合わせ、個別の安心を追求する努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に不安やご要望お伺いし、サービス開始後にお話しした事との内容に差がないようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に、必要な支援をお伺いし見極め対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人様やご家族様、また介護の中で得られる情報を整理し出来る事を見出し実践できるよう支援している。そこから共に支えあう関係作りを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人様と家族様の中間的立場を意識し、報告や連絡・相談を密に行い共にご入居者様を支えていけるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご面会は※1特別な事情(※1…本人様・家族様のご要望等)がない限りは基本的にいつでも対応可能としている。またご本人様の希望に応じて、時にはご家族様に支援の協力(お墓参り等)を頂いたりしている。 (外部評価) 入居前に管理者とユニット長が利用者宅を訪問し、生活環境を把握し、行きつけの場所や店、おつきあいしてきたご近所さんなどの把握にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関係性がおもわしくないと感じられる時は間に入り調整する。またコミュニケーションが円滑に図れるよう共同の楽しみ作りについて声掛けや見守りを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 現在までになかなか実施できていない状況であるため、是非今後は催し物・運営推進会議等で支援を図っていききたい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 生活を援助する上で一番大切な部分であり、その時々によっても変化する意向の収集を行い日報等に記入している。またその情報を活かせるようショートミーティングを開き実践している。 (外部評価) 入居時に身体機能の状態や要望を聞き取り調査票を作成している。日常生活の中で職員が聞き取ったことは、日報などに記載して引き継ぎ時などに伝えている。	利用者の要望や思い、気持や心の変化など、職員が日々の生活の中で気づいたことを、各利用者ごとに記載し集積しておくことにより全職員が共有しケアの質の向上に結びつくので、記録の取り方の工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等が分かるような聞き取りを行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の状態が分かるような聞き取りを行っている。ご入居後にも、情報を基に生活のリズムに沿って心身状態、有する力の把握をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様、家族様の意向を確認し、プランに反映している。ご利用開始時は初回作成として1カ月(退院時も含む)、その後は3カ月に一度更新を基本としている。またモニタリングを1カ月に1度ユニット会議でおこなっている。今後はプランの仕組みを改良する予定である。 (外部評価) 介護計画は、毎月担当者がモニタリングを行い、ユニット会で意見を出し合い、3か月毎に見直しを行っている。より具体的な介護計画となるよう、様式について検討をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は個別の介護記録に記入し共有しているが、情報を活かす記録にはなっていない。その為今後勉強会等で学び、よりよい個別の記録と実践への反映を目指したい。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出希望等の急なニーズ等にも出来る限り対応できるよう努力している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアとしては、三線演奏会をして頂いたり、また近隣の美容院より出張サービスがあり、利用をしている。また可能な限りご本人様と共に美容院へ徒歩で出向く事も行っている。今後更に向上を図っていきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 2週間に一度係りつけ医にて訪問診療を受けている。馴 染みの先生という観点からも安心した適切な医療を受 けられるように支援している。また状態やご希望があ れば、他病院の受診もご家族様にご相談し、対応に関 してご家族若しくは施設対応か決定し柔軟に対応して いる。 (外部評価) かかりつけ医受診は基本的には家族が行っている。利 用者の状態については、必要に応じて口頭で伝えてい る。ほとんどの方は協力医療機関による月2回の往診 で健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 表情や体調等に変化があれば、看護師に相談を行う。 状態を確認する。直ぐに対応が必要な場合は主治医へ 連絡し指示を仰ぎ対応している。また2週間に1度の訪 問診療時には状態を医師へ報告し個々の利用者が適切 な受診や看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には、病院関係者と情報交換を行っている 。また入院中も出来る限りお見舞いに行き新鮮な情 報を取り入れることとしている。(入院時には、基本情 報やお薬の説明、入院までの経緯を提供している。退 院時もほぼ同様)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご入居の際に一律に「看取りに関する指針」を提示ご説 明している。時期が来た場合に家族様、主治医、管理 者、ユニット長、看護師にて重度化や終末期に向けた 方針の共有と支援について話し合いを行っている。同 時に看取りケアプランを作成し(連絡/相談/報告なが ら1週間に1度見直し)チームで支援に取り組んでいる (外部評価) 看取りについては、具体的な指針を作成している。家 族には医師を交えて繰り返し話し合いを重ねている。 看取り期間には、医師の指示を含めて1週間毎にケア プランの見直しを行っている。職員の勤務体制も状況 に応じて組み直し、家族の宿泊環境も整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。また一目で分かるようなフローチャートも作成し掲示している。また看取り時の特殊な対応に関しても対象者別に作成ファイリングを行っている。実践力に関しては課題が残されており定期的な訓練を行っていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。年に2回程度の消防訓練は行っているが災害対応の実践力に関しては課題が残されており定期的な訓練を行っていきたい。 (外部評価) 具体的で細部にわたる防災マニュアルが作成されている。消防署の指導による年2回の昼夜想定避難訓練を行っている。外階段の位置など構造上の限界、職員だけの誘導の限界など問題点を認識しており対策を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々のショートミーティング時や月に1度のユニットカンファレンスの際に個別対応についての報告連絡相談を行い一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 居室、浴室、トイレなどプライバシーゾーンを利用の際は声かけなどに十分な配慮をしている。個人記録の取り扱い、たよりや広報紙への記載事項についてもプライバシーにかかわる事がないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食事形態や衣類選定等で希望表出/自己決定の場面を数多く設けられる様に見守りや声掛けの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 居室で過ごしたい時は居室で…等やりたい事がある方にはこちらの流れを押しつけず自分流の方法で過ごして頂く様見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、洗面、口腔、整髪、衣類の本人の希望を聞き着ていただき感想を伺う。鏡を見ていただく。女性の方へはおしゃれに関する話をし感想を聞く。皆さんに自分でできる範囲の身だしなみはやっていただく。きれいになっていく喜びを分かち合う。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みの食事を聞いていく。食べたい物の希望をメニューに取り入れる。調理の準備を危なくない範囲でやっていただく。皆さんと一緒に食事をいただく。準備や片づけ等それぞれ分担してやっていただき、お互いに助け合ってやっていく。女性の方は皆さん上手にやっていただける。 (外部評価) 基本的なメニューは、デイサービスの厨房の栄養士がつくっているが、ユニット毎に利用者の好みや状況により臨機応変に対応している。ユニットにより利用者と一緒に作ったり、片づけをしったり楽しく行うなど、利用者本位の食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量の足りない方へは一日4回5回に分けて決めた水分量を飲みやすいようトロミ付きにしたりゆっくりと話をしつつ摂っていただく。食事量の少ない方の場合には補助食品で補う。夜間の水分補給にも気を配っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨き、うがいの出来ない方にはガーゼを湿らせて拭き取る。忘れる方へは出来るところまで声掛けをしていき後のケアを介助していく。義歯は就寝前に外し洗浄液につけている。口腔内のチェックを常に行い、清潔を促す。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 時間を空けてトイレ誘導を行う。トイレへ行きたいサインが見られた時のすばやい誘導、汚染オムツ、パット類の早い処理をする。本人の意志の確認後排泄を促しトイレ誘導し排泄の有無を待つ。	
			<p>(外部評価)</p> 排泄チェック表をもとに個々に応じた時間に声かけ誘導を行っている。自立している利用者についても確認している。夜間は居室のポータブルを利用される方もあり、清潔に注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 乳製品の食品や、便秘に良いとされる野菜や果物類を食事に取り入れる。水分補給を行う。本人の負担にならないようにレベルに合った運動を一緒に行う。2日3日排便のない場合は緩下剤を服用していただく。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 家族の面会の時間は避ける。また入浴時は、個性を考慮し時には対面で、時には透き戸の向こうでお話をしながら30分程度を目安に支援している。外出予定日の前日に入浴をして頂いて外出の喜びを味わっていただく。予定日をお知らせし待つ楽しみを味わっていただく。	
			<p>(外部評価)</p> 週2回を基本としている。家庭的なユニットバスなので一人でゆっくり入浴できる。職員はプライバシーを大事に各々に必要な介助をしている。座位を保ちにくい利用者は特浴を利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 体調の具合や寒がり暑がりの方のペースに合わせて布団の調整をする。照明を調整する。妨げにならない程度の夜のテレビは意志どおりに見ていただき、終わり次第就寝を促し又の楽しみを話し語り合う。就寝前のトイレ誘導をする。水分補給をする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 訪問診療時の処方が変わった時には服薬ノートを記入する。職員に申し送りをする。誰が見ても間違いがなく判り易いセットの仕方を工夫している。症状の変化の有無を常に話し合っていく。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の得意分野を理解した上で体調や表情を見ながらお願いし達成感を感じていただいている。続けてお願いをしていると自然に自然に手伝いをしてくださる様になった。話をしながらの作業は気分転換にもなっていると思われる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々の会話の中で個別の「旬」にアンテナを張り、毎月一回なるべく全員で出かけられるよう外出計画を立てている。毎年恒例の場所への外出もある。希望があればご家族の同行も行っている。	
			(外部評価) 季節の良い時期には近所の公園に散歩に出かけている。周辺の道路は道幅が狭く交通が激しいので、細心の注意を払いながら近くのスーパーまで買い物に出かける。季節に応じてお花見、菊花展など外出計画を立て実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在小口現金としてユニット管理をしているため、ご自分がお金を持っておく当たり前の状態が実践できていない。少額でもご本人様が所持できるようご家族様と管理方法を話し合いながらお金を所持したり使えるように支援していきたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人様の希望を第一に受け止め相手方のお許しがある場合は家族や大切な人に本人自らが電話をしたりできるよう必ず支援を行っている。また言葉や表情を観察し「求め」を察する事ができる場合にも、職員が窓口となり支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間トイレ使用時トイレ周りの照明を点けておく。個人に合わせた温度設定をする。昼間横になる時にはカーテンを閉め眩しくない様にしていく。壁飾りを作っている。2日に1回は掃除機をあてきれいにする。	
			(外部評価) 建物が企業の社員寮を一部改造したものであるため不便なところもあるが、廊下や階段には手摺りを取り付け、過ごしやすいよう整備されている。リビングが少し狭いが、利用者のすぐそばに寄り添って過ごすことができる利点もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングで過ごされる場合、自分の席に座っていただく。廊下にソファを置き憩いの場所を作っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご入居時にユニット畳若しくはフローリングどちらかを選択して頂いている。家具類、テレビ、布団、衣類等身の回りの全ての物品はご家族と相談し環境が許される限り本人の好みの物、使い慣れた覚えのあるもので揃えるようにしている。	
			(外部評価) 居室は独立して生活ができる造りになっている。家具、布団、テレビ、趣味の物、家族の写真など利用者にとって大切な物をたくさん持ち込み、部屋ごとに違った雰囲気が感じられ、居心地良く過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの身体機能及び安全・安楽を考慮した工夫や失敗を招くことのない環境整備を今後図っていく。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102401
法人名	有限会社 ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの家
所在地	愛媛県松山市北斎院1072-1
自己評価作成日	平成22年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 11 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「その人らしく有り続けるために」を念頭に置き支援を行っている。②健康を保ち楽しんで生活をしていただけるようCD体操や音楽、お出かけや農作業を取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

企業の社員寮であった建物の構造を活かし、利用者一人ひとりが自分の生活を楽しむことのできる長屋のような雰囲気をもっている。建物の一部に併設しているデイサービスセンターが利用者にとって地域の方との出会いの場となっている。協力医療機関と連携体制がしっかりしており、健康管理についてはもちろん、終末期におけるケアについても具体的なマニュアルと経験をもっており、終の住家となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの家

(ユニット名) 葉っぱユニット

記入者(管理者)

氏名 菅 浩司

評価完了日

平成22年10月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型のグループホームを目指し地域で行われる様々な行事にも参加している。管理者と職員は理念の共有をしている。	
			(外部評価) すみれグループの理念をふまえ職員のアンケートを基にすみれの家の理念を掲げたが、共有と実践には至っていない事に気づき意識づけようとしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域で開催される運動会・市民大清掃・盆踊り・地方祭などに参加し、入居者様と共に交流を図っている。	
			(外部評価) 町内会とは盆踊りや敬老会、秋祭りなどの行事を通してつながりは始めている。さらに散髪屋を利用するなど、日常の生活の中で顔の見える関係ができるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎年津田中学生の職場体験学習の場としてホームを提供させて頂いている。その際は入居者様とふれあい、障害を学ぶ場としても活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2カ月毎に開催されており、家族様/地区の委員様/市町村の担当者様を交えて屈託のない話し合いの場となっている。ご家族様の内情の吐露もみられ、除々に良い会議となっている。	
			(外部評価) 運営推進会議マニュアルを作成し、要綱に基づきイベントへの参加にとどまることなく、地域や家族とのつながりを大切にしながら、年間議題を作成し2か月に1回開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 津田地区の公民館などで開催される会議に参加し、グループホーム内の状況等を報告し理解支援を求めている。	
			(外部評価) 書類提出時の機会を逃さず、担当者と顔見知りの関係をつくり、情報交換や相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間等、ベッドで休んで頂く時や転倒の恐れがあると思われる時はご家族様に同意書を頂くようにしている。又日中(AM8:00~PM17:00)入居者様に危険が及ぶと判断した際は止むを得ずユニット入口を一時的に施錠する事がある。ユニット長会議で毎回議題にし、身体拘束を排除する取り組みを行っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアは介護の基本である事を認識し、ミーティング時に具体的な話し合いを行い、職員全員で共有している。建物の構造上、見通しが悪く居室の出入りに配慮の必要な利用者の居室にはセンサーをつけるなど、利用者の状態に応じて配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 更衣時に肌の露出があるため身体の状態を観察し申し送りを行い異常の早期発見に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 対象者はいないが、必要性について全員が理解し支援について話し合っていく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者様及び家族様と管理者、内容によっては医療関係者と説明を行い十分な理解同意の上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者様及び家族様のご意見ご要望は、貴重な事と受け止め、どのような事でもひとつひとつお答えできるよう日々のミーティングなどで情報の共有を行っている。またご返答のタイミングはスピードを重視している。 (外部評価) 運営推進会議への参加を促したり、来訪時には必ず声かけをおこない、加えて毎月担当職員が手書きで近況報告を行い信頼関係をつくる事に配慮しているので、少しずつ要望や意見が出はじめている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者がユニットを訪問し、職員の意見や提案を吸い上げ社内メールや電話にて統括部長に相談している。また2週間に一度グループ全体での会議の際にも同様な事を行っている。返答を確実に行うことで信頼関係の構築を図っている。 (外部評価) ユニットではいつでも誰もが提案しやすい雰囲気をつくっており、ユニット長が参加するリーダー会で、職員からの意見を集約している。法人への提案などは、2週間に1回の法人全体の管理者会やメール、電話で伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個別職能レベルを把握できるよう定期的に面談を行ったりまた勤務シフト作成時には労働パターンを考慮したり、個人の希望休をできるだけ(1シフトに2回程度)反映できるよう考慮している。今後も更に向上できるよう取り組んでいく。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修についてその都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよう人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の相互研修に参加したり、その都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよう人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人様が安心して生活していけるよう関わりを多く持ち良好な関係作りを行っている。また利用前訪問調査表を基礎知識としながら実際の状態との差を考えご本人様の求める「支援」・必要な「支援」に擦り合わせ、個別の安心を追求する努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に不安やご要望お伺いし、サービス開始後にお話しした事との内容に差がないようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に、必要な支援をお伺い見極め対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人様やご家族様、また介護の中で得られる情報を整理し出来る事を見出し実践できるよう支援している。そこから共有・共感できる関係作りをじっくり行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人様と家族様の中間的立場を意識し、報告や連絡・相談を密に行い共にご入居者様を支えていけるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 「これまでと変わらない生活」を意識し支援しております。ご面会は※1特別な事情(※1…本人様・家族様のご要望等)がない限りは基本的にいつでも対応可能としている。またご本人様の希望に応じて、時にはご家族様に支援の協力(お墓参り等)を頂いたりしている。 (外部評価) 入居前に管理者とユニット長が利用者宅を訪問し、生活環境を把握し、行きつけの場所や店、おつきあいしてきたご近所さんなどの把握にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者様が孤立することなく、共に暮らしの中で助け合えるよう、共通の話題作りを投げかけ生活を「楽しめる」様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 「移り住む事のダメージ」を最小限に食い止めるため家族様や移り住む先の関係者に対して、ケアの工夫・生活習慣などの情報を伝える支援を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 生活を援助する上で一番大切な部分であり、その時々によっても変化する意向の収集を行い日報等に記入している。またその情報を活かせるようショートミーティングを開き実践している。(花作りや野菜作り) (外部評価) 入居時に身体機能の状態や要望を聞き取り調査票を作成している。日常生活の中で職員が聞き取ったことは、日報などに記載して引き継ぎ時などに伝えている。	利用者の要望や思い、気持や心の変化など、職員が日々の生活の中で気づいたことを、各利用者ごとに記載し集積しておくことにより全職員が共有しケアの質の向上に結びつくので、記録の取り方の工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等が分かるような聞き取りを行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の状態が分かるような聞き取りを行っている。ご入居後にも、情報を基に生活のリズムに沿って心身状態、有する力の把握をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様、家族様の意向を確認し、プランに反映している。ご利用開始時は初回作成として1カ月(退院時も含む)、その後は3カ月に一度更新を基本としている。またモニタリングを1カ月に1度ユニット会議でおこなっている。今後はプランの仕組みを改良する予定である。 (外部評価) 介護計画は、毎月担当者がモニタリングを行い、ユニット会で意見を出し合い、3か月毎に見直しを行っている。より具体的な介護計画となるよう、様式について検討をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員間で情報を共有しながら、職員しか知り得ない事柄やケアの気づきを具体的に記入しながら介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出希望等の急なニーズ等にも出来る限り対応できるよう努力している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアとしては、三線演奏会をして頂いたり、また近隣の美容院より出張サービスがあり、利用をしている。また可能な限りご本人様と共に美容院へ徒歩で出向く事も行っている。今後更に向上を図っていきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 2週間に一度係りつけ医にて訪問診療を受けている。馴 染みの先生という観点からも安心した適切な医療を受 けられるように支援している。また状態やご希望があ れば、他病院の受診もご家族様にご相談し、対応に関 してご家族若しくは施設対応か決定し柔軟に対応して いる。 (外部評価) かかりつけ医受診は基本的には家族が行っている。利 用者の状態については、必要に応じて口頭で伝えてい る。ほとんどの方は協力医療機関による月2回の往診 で健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 表情や体調等に変化があれば、看護師に相談を行う。 状態を確認する。直ぐに対応が必要な場合は主治医へ 連絡し指示を仰ぎ対応している。また2週間に1度の訪 問診療時には状態を医師へ報告し個々の利用者が適切 な受診や看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には、病院関係者と情報交換を行っている 。また入院中も出来る限りお見舞いに行き新鮮な情 報を取り入れることとしている。(入院時には、基本情 報やお薬の説明、入院までの経緯を提供している。退 院時もほぼ同様)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご入居の際に一律に「看取りに関する指針」を提示ご説 明している。時期が来た場合に家族様、主治医、管理 者、ユニット長、看護師にて重度化や終末期に向けた 方針の共有と支援について話し合いを行っている。同 時に看取りケアプランを作成し(連絡/相談/報告なが ら1週間に1度見直し)職員全体で支援に取り組んでいる (外部評価) 看取りについては、具体的な指針を作成している。家 族には医師を交えて繰り返し話し合いを重ねている。 看取り期間には、医師の指示を含めて1週間毎にケア プランの見直しを行っている。職員の勤務体制も状況 に応じて組み直し、家族の宿泊環境も整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。また一目で分かるようなフローチャートも作成し掲示している。また看取り時の特殊な対応に関しても対象者別に作成ファイリングを行っている。実践力に関しては課題が残されており定期的な訓練を行っていききたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。年に2回程度の消防訓練は行っているが災害対応の実践力に関しては課題が残されており定期的な訓練を行っていききたい。 (外部評価) 具体的で細部にわたる防災マニュアルが作成されている。消防署の指導による年2回の昼夜想定避難訓練を行っている。外階段の位置など構造上の限界、職員だけの誘導の限界など問題点を認識しており対策を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々のショートミーティング時や月に1度のユニットカンファレンスの際に個別対応についての報告連絡相談を行い一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 居室、浴室、トイレなどプライバシーゾーンを利用の際は声かけなどに十分な配慮をしている。個人記録の取り扱い、たよりや広報紙への記載事項についてもプライバシーにかかわる事がないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食事形態や衣類選定等で希望表出/自己決定の場面を数多く設けられる様に見守りや声掛けの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 居室で過ごしたい時は居室で…等やりたい事がある方にはこちらの流れを押しつけず自分流の方法で過ごして頂く様見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、洗面、口腔、整髪、衣類の本人の希望を聞き着ていただき感想を伺う。鏡を見ていただく。女性の方へはおしゃれに関する話をし感想を聞く。皆さんに自分でできる範囲の身だしなみはやっていただく。きれいになっていく喜びを分かち合う。更衣が自力可能な方は特に「状態」を注意深く観察し対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みの食事を聞いていく。食べたい物の希望をメニューに取り入れる。調理の準備を危なくない範囲でやっていただく。準備や片づけ等それぞれ分担してやっていただき、お互いに助け合ってやっていく。 (外部評価) 基本的なメニューは、デイサービスの厨房の栄養士がつくっているが、ユニット毎に利用者の好みや状況により臨機応変に対応している。ユニットにより利用者と一緒に作ったり、片づけをしったり楽しく行うなど、利用者本位の食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量はの方が食べれる量を盛ったり、入居者様自身がお嫌いな物に関しては、無理なく食べて頂くよう声掛けをしている。介助の必要な方に対しては食べ易くカットしたりミキサーやトロミにて一人ひとりに応じた食事形態を心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨き、うがいの出来ない方にはガーゼを湿らせて拭き取る。忘れる方へは出来るところまで声掛けをしていき後のケアを介助していく。義歯は就寝前に外し洗浄液につけている。口腔内のチェックを常に行い、清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 時間を空けてトイレ誘導を行う。トイレへ行きたいサインが見られた時のすばやい誘導、汚染オムツ、パット類の早い処理をする。本人の意志の確認後排泄を促しトイレ誘導し排泄の有無を待つ。	
			<p>(外部評価)</p> 排泄チェック表をもとに個々に応じた時間に声かけ誘導を行っている。自立している利用者についても確認している。夜間は居室のポータブルを利用される方もあり、清潔に注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 乳製品の食品や、便秘に良いとされる野菜や果物類を食事に取り入れる。水分補給を行う。本人の負担にならないようにレベルに合った運動を一緒に行う。2日3日排便のない場合は緩下剤を服用していただく。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 家族の面会の時間は避ける。また入浴時は、個別性を考慮し時には対面で、時には透き戸の向こうでお話をしながら30分程度を目安に支援している。入居されている皆様のご希望通り入浴して頂く事は難しいが今後努力していく。	
			<p>(外部評価)</p> 週2回を基本としている。家庭的なユニットバスなので一人でゆっくり入浴できる。職員はプライバシーを大事に各々に必要な介助をしている。座位を保ちにくい利用者は特浴を利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 体調の具合や寒がり暑がりの方のペースに合わせて布団の調整をする。照明を調整する。妨げにならない程度の夜のテレビは意志どおりに見ていただき、終わり次第就寝を促し又の楽しみを話し語り合う。就寝前のトイレ誘導をする。水分補給をする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 訪問診療時の処方が変わった時には服薬ノートを記入する。職員に申し送りをする。誰が見ても間違いがなく判り易いセットの仕方を工夫している。症状の変化の有無を常に話し合っていく。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の得意分野を理解した上で体調や表情を見ながらお願いし達成感を感じていただいている。毎日のテレビや新聞を見ながら、世相などを話しコミュニケーションを図っている。話をしながらの作業は気分転換にもなっていると思われます。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々の会話の中で個別の「旬」にアンテナを張り、毎月一回なるべく全員で出かけられるよう外出計画を立てている。毎年恒例の場所への外出もある。希望があればご家族の同行も行っている。 (外部評価) 季節の良い時期には近所の公園に散歩に出かけている。周辺の道路は道幅が狭く交通が激しいので、細心の注意を払いながら近くのスーパーまで買い物に出かける。季節に応じてお花見、菊花展など外出計画を立て実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在小口現金としてユニット管理をしているため、ご自分がお金を持っておく当たり前の状態が実践できていない。少額でもご本人様が所持できるようご家族様と管理方法を話し合いながらお金を所持したり使えるように支援していきたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人様の希望を第一に受け止め相手方のお許しがある場合は家族や大切な人に本人自らが電話をしたりできるよう必ず支援を行っている。また言葉や表情を観察し「求め」を察する事ができる場合にも、職員が窓口となり支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間トイレ使用時トイレ周りの照明を点けておく。個人に合わせた温度設定をする。昼間横になる時にはカーテンを閉め眩しくない様にしていく。壁飾りを作っている。2日に1回は掃除機をあてきれいにする。	
			(外部評価) 建物が企業の社員寮を一部改造したものであるため不便なところもあるが、廊下や階段には手摺りを取り付け、過ごしやすいよう整備されている。リビングが少し狭いが、利用者のすぐそばに寄り添って過ごすことができる利点もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング内にはソファを置いていつでも腰を掛けて景色を見たり、気の合う方同士でお話をされたりしています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご入居時にユニット畳若しくはフローリングどちらかを選択して頂いている。家具類、テレビ、布団、衣類等身の回りの全ての物品はご家族と相談し環境が許される限り本人の好みの物、使い慣れた覚えのあるもので揃えるようにしている。	
			(外部評価) 居室は独立して生活ができる造りになっている。家具、布団、テレビ、趣味の物、家族の写真など利用者にとって大切な物をたくさん持ち込み、部屋ごとに違った雰囲気が感じられ、居心地良く過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの身体機能及び安全・安楽を考慮した工夫や失敗を招くことのない環境整備を今後図っていく。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102401
法人名	有限会社 ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの家
所在地	愛媛県松山市北斎院1072-1
自己評価作成日	平成22年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 11 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「その人らしく有り続けるために」を念頭に置き支援を行っている。②健康を保ち楽しんで生活をしていただけるようなんびりゆっくりしたコミュニケーションを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

企業の社員寮であった建物の構造を活かし、利用者一人ひとりが自分の生活を楽しむことのできる長屋のような雰囲気をもっている。建物の一部に併設しているデイサービスセンターが利用者にとって地域の方との出会いの場となっている。協力医療機関と連携体制がしっかりしており、健康管理についてはもちろん、終末期におけるケアについても具体的なマニュアルと経験をもっており、終の住家となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの家

(ユニット名) 花ユニット

記入者(管理者)

氏名 菅 浩司

評価完了日

平成 22 年 10 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型のグループホームを目指し地域で行われる様々な行事にも参加している。管理者と職員は理念の共有をしている。	
			(外部評価) すみれグループの理念をふまえ職員のアンケートを基にすみれの家の理念を掲げたが、共有と実践には至っていない事に気づき意識づけようとしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域で開催される運動会・市民大清掃・盆踊り・地方祭などに参加し、入居者様と共に交流を図っている。	
			(外部評価) 町内会とは盆踊りや敬老会、秋祭りなどの行事を通してつながりはじめています。さらに散髪屋を利用するなど、日常の生活の中で顔の見える関係ができるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎年津田中学生の職場体験学習の場としてホームを提供させて頂いている。その際は入居者様とふれあい、障害を学ぶ場としても活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2カ月毎に開催されており、家族様/地区の委員様/市町村の担当者様を交えて屈託のない話し合いの場となっている。ご家族様の内情の吐露もみられ、除々に良い会議となっている。	
			(外部評価) 運営推進会議マニュアルを作成し、要綱に基づきイベントへの参加にとどまることなく、地域や家族とのつながりを大切にしながら、年間議題を作成し2か月に1回開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 津田地区の公民館などで開催される会議に参加し、グループホーム内の状況等を報告し理解支援を求めている。	
			(外部評価) 書類提出時の機会を逃さず、担当者と顔見知りの関係をつくり、情報交換や相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間等、ベッドで休んで頂く時や転倒の恐れがあると思われる時はご家族様に同意書を頂くようにしている。又日中(AM8:00~PM17:00)入居者様に危険が及ぶと判断した際は止むを得ずユニット入口を一時的に施錠する事がある。ユニット長会議で毎回議題にし、身体拘束を排除する取り組みを行っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアは介護の基本である事を認識し、ミーティング時に具体的な話し合いを行い、職員全員で共有している。建物の構造上、見通しが悪く居室の出入りに配慮の必要な利用者の居室にはセンサーをつけるなど、利用者の状態に応じて配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 学ぶ機会は少ないが、資料配布等有る場合は職員が目を通して見ている。更衣時に肌の露出があるため身体の状態を観察し申し送りを行い異常の早期発見に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 対象者はいないが、必要性について全員が理解し支援について話し合っていく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者様及び家族様と管理者、内容によっては医療関係者と説明を行い十分な理解同意の上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関には「ご意見箱」を設置し意見の収集を図っている。また入居者様及び家族様のご意見ご要望は、貴重な事と受け止め、どのような事でもひとつひとつお答えできるよう日々のミーティングなどで情報の共有を行っている。またご返答のタイミングはスピードを重視している。 (外部評価) 運営推進会議への参加を促したり、来訪時には必ず声かけをおこない、加えて毎月担当職員が手書きで近況報告を行い信頼関係をつくる事に配慮しているので、少しずつ要望や意見が出はじめている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者がユニットを訪問し、職員の意見や提案を吸い上げ社内メールや電話にて統括部長に相談している。また2週間に一度グループ全体での会議の際にも同様な事を行っている。返答を確実に行うことで信頼関係の構築を図っている。</p> <p>(外部評価) ユニットではいつでも誰もが提案しやすい雰囲気をつくっており、ユニット長が参加するリーダー会で、職員からの意見を集約している。法人への提案などは、2週間に1回の法人全体の管理者会やメール、電話で伝えている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 個別職能レベルを把握できるよう定期的に面談を行ったりまた勤務シフト作成時には労働パターンを考慮したり、個人の希望休をできるだけ(1シフトに2回程度)反映できるよう考慮している。今後も更に向上できるよう取り組んでいく。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外の研修についてその都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよう人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の相互研修に参加したり、その都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよう人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ご本人様が安心して生活していけるよう関わりを多く持ち良好な関係作りを行っている。また利用前訪問調査表を基礎知識としながら実際の状態との差を考えご本人様の求める「支援」・必要な「支援」に擦り合わせ、個別の安心や安楽を追求する努力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に不安やご要望お伺いし、サービス開始後にお話しした事との内容に差がないようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に、必要な支援をお伺いし見極め、その人にとっての「良好」な状態を保つ様に努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人様やご家族様、また介護の中で得られる情報を整理し出来る事を見出し実践できるよう支援している。そこから共有・共感できる関係作りをじっくり行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人様と家族様の中間的立場を意識し、報告や連絡・相談を密に行い共にご入居者様を支えていけるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 「これまでと変わらない生活」を意識し支援しております。ご面会は※1特別な事情(※1…本人様・家族様のご要望等)がない限りは基本的にいつでも対応可能としている。また来訪があった場合には、居室内でゆっくり過ごせるよう椅子やお茶を、お出しし快適な空間作りの援助を行っている。 (外部評価) 入居前に管理者とユニット長が利用者宅を訪問し、生活環境を把握し、行きつけの場所や店、おつきあいしてきたご近所さんなどの把握にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者が孤立することなく、共に暮らしの中で助け合えるよう、共通の話題作りを投げかけ、生活を「楽しめる」様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 「移り住む事のダメージ」を最小限に食い止めるため家族様や移り住む先の関係者に対して、ケアの工夫・生活習慣などの情報を伝える支援を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 生活を援助する上で一番大切な部分であり、その時々によっても変化する意向の収集を行い日報等に記入している。またその情報を活かせるようショートミーティングを開き実践している。(花作りや野菜作り)対応が難しい場合には、ご家族様へ相談を行いなるべくご意向に沿えるよう努力している。 (外部評価) 入居時に身体機能の状態や要望を聞き取り調査票を作成している。日常生活の中で職員が聞き取ったことは、日報などに記載して引き継ぎ時などに伝えている。	利用者の要望や思い、気持や心の変化など、職員が日々の生活の中で気づいたことを、各利用者ごとに記載し集積しておくことにより全職員が共有しケアの質の向上に結びつくので、記録の取り方の工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等が分かるような聞き取りを行い、これまでの生活が維持できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の状態が分かるような聞き取りを行っている。ご入居後にも、情報を基に生活のリズムに沿って心身状態、有する力の把握をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人様、家族様の意向を確認し、プランに反映している。ご利用開始時は初回作成として1カ月(退院時も含む)、その後は3カ月に一度更新を基本としている。またモニタリングを1カ月に1度ユニット会議でおこなっている。今後はプランの仕組みを改良する予定である。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、毎月担当者がモニタリングを行い、ユニット会で意見を出し合い、3か月毎に見直しを行っている。より具体的な介護計画となるよう、様式について検討をしている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 職員間で情報を共有しながら、職員しか知り得ない事柄(個別のコミュニケーション方法)やケアの気づきを具体的に記入しながら介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 外出希望等の急なニーズ等にも出来る限り対応できるよう努力している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) ボランティアとしては、三線演奏会をして頂いたり、また近隣の美容院より出張サービスがあり、利用をしている。また可能な限りご本人様と共に美容院へ徒歩で出向く事も行っている。今後更に向上を図っていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 2週間に一度係りつけ医にて訪問診療を受けている。馴 染みの先生という観点からも安心した適切な医療を受 けられるように支援している。また状態やご希望があ れば、他病院の受診もご家族様にご相談し、対応に関 してご家族若しくは施設対応か決定し柔軟に対応して いる。 (外部評価) かかりつけ医受診は基本的には家族が行っている。利 用者の状態については、必要に応じて口頭で伝えてい る。ほとんどの方は協力医療機関による月2回の往診 で健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 表情や体調等に変化があれば、看護師に相談を行う。 直ぐに対応が必要な場合は主治医へ連絡し指示を仰ぎ 対応している。また2週間に1度の訪問診療時には状態 を医師へ報告し個々の利用者が適切な受診や看護を受 けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時の際には、病院関係者と情報交換を行ってい る。また入院中も出来る限りお見舞いに行き新鮮な情 報を取り入れることとしている。(入院時には、基本情 報やお薬の説明、入院までの経緯を提供している。退 院時もほぼ同様)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご入居の際に一律に「看取りに関する指針」を提示ご説 明している。時期が来た場合に家族様、主治医、管理 者、ユニット長、看護師にて重度化や終末期に向けた 方針の共有と支援について話し合いを行っている。同 時に看取りケアプランを作成し(連絡/相談/報告しなが ら1週間に1度見直し)職員全体で支援に取り組んでいる (外部評価) 看取りについては、具体的な指針を作成している。家 族には医師を交えて繰り返し話し合いを重ねている。 看取り期間には、医師の指示を含めて1週間毎にケア プランの見直しを行っている。職員の勤務体制も状況 に応じて組み直し、家族の宿泊環境も整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。また一目で分かるようなフローチャートも作成し掲示している。また看取り時の特殊な対応に関しても対象者別に作成ファイリングを行っている。実践力に関しては課題が残されており定期的な訓練を行っていききたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。年に2回程度の消防訓練は行っているが災害対応の実践力に関しては課題が残されており定期的な訓練を行っていききたい。 (外部評価) 具体的で細部にわたる防災マニュアルが作成されている。消防署の指導による年2回の昼夜想定避難訓練を行っている。外階段の位置など構造上の限界、職員だけの誘導の限界など問題点を認識しており対策を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々のショートミーティング時や月に1度のユニットカンファレンスの際に個別対応についての報告連絡相談を行い一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 居室、浴室、トイレなどプライバシーゾーンを利用の際は声かけなどに十分な配慮をしている。個人記録の取り扱い、たよりや広報紙への記載事項についてもプライバシーにかかわる事がないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 起床時間・食事形態や衣類選定等で希望表出/自己決定の場面を数多く設けられる様に見守りや声掛けの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 居室で過ごしたい時は居室で…等やりたい事がある方にはこちらの流れを押しつけず自分流の方法で過ごして頂く様見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、洗面、口腔、整髪、衣類の本人の希望を聞き着ていただき感想を伺う。鏡を見ていただく。女性の方へはおしゃれに関する話をし感想を聞く。皆さんに自分でできる範囲の身だしなみはやっていただく。きれいになっていく喜びを分かち合う。更衣が自力可能な方は特に「状態」を注意深く観察し対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お嫌いな食事は量を減らしたり、他の物と替えたりと少しでも食べて頂けるようにしている。又、体調に合わせお粥・刻み・ミキサー食等にも細かく対応している。ユニットの要介護度数が高く準備の手伝いは難しいが下膳の出来る方にはお願いしている。 (外部評価) 基本的なメニューは、デイサービスの厨房の栄養士がつくっているが、ユニット毎に利用者の好みや状況により臨機応変に対応している。ユニットにより利用者と一緒に作ったり、片づけをしったり楽しく行うなど、利用者本位の食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量はの方が食べれる量を盛ったり、入居者様自身がお嫌いな物に関しては、無理なく食べて頂くよう声掛けをしている。介助の必要な方に対しては食べ易くカットしたりミキサーやトロミにて一人ひとりに応じた食事形態を心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨き、うがいの出来ない方にはガーゼを湿らせて拭き取る。忘れる方へは出来るところまで声掛けをしていき後のケアを介助していく。義歯は就寝前に外し洗浄液につけている。口腔内のチェックを常に行い、清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 管理表を使用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、声掛けや誘導を行っている。トイレでの自然な排泄を大切にし、リハビリパンツやパット類も入居者様に合わせて調節している。排泄動作が自立している方は誘導や後始末の支援を実施している。	
			<p>(外部評価)</p> 排泄チェック表をもとに個々に応じた時間に声かけ誘導を行っている。自立している利用者についても確認している。夜間は居室のポータブルを利用される方もあり、清潔に注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 乳製品の食品や、便秘に良いとされる野菜や果物類を食事に取り入れる。水分補給を行う。本人の負担にならないようにレベルに合った運動を一緒に行う。2日3日排便のない場合は緩下剤を服用していただく。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 家族の面会の時間は避ける。また入浴時は、個別性を考慮し時には対面で、時には透き戸の向こうでお話をしながら30分程度を目安に支援している。入居されている皆様のご希望通り入浴して頂く事は難しいが、その際は足浴や清拭を実施し、今後努力していく。	
			<p>(外部評価)</p> 週2回を基本としている。家庭的なユニットバスなので一人でゆっくり入浴できる。職員はプライバシーを大事に各々に必要な介助をしている。座位を保ちにくい利用者は特浴を利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 体調の具合や寒がり暑がりの方のペースに合わせて布団の調整をする。照明を調整する。妨げにならない程度の夜のテレビは意志どおりに見ていただき、終わり次第就寝を促し又の楽しみを話し語り合う。就寝前のトイレ誘導をする。水分補給をする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 訪問診療時の処方が変わった時には服薬ノートを記入する。職員に申し送りをする。誰が見ても間違いがなく判り易いセットの仕方を工夫している。症状の変化の有無を常に話し合っていく。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の得意分野を理解した上で体調や表情を見ながらお願いし達成感を感じていただいている。毎日のテレビや新聞を見ながら、世相などを話しコミュニケーションを図っている。話をしながらの作業は気分転換にもなっていると思われます。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々の会話の中で個別の「旬」にアンテナを張り、毎月一回なるべく全員で出かけられるよう外出計画を立てている。毎年恒例の場所への外出もある。希望があればご家族の同行も行っている。 (外部評価) 季節の良い時期には近所の公園に散歩に出かけている。周辺の道路は道幅が狭く交通が激しいので、細心の注意を払いながら近くのスーパーまで買い物に出かける。季節に応じてお花見、菊花展など外出計画を立て実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在小口現金としてユニット管理をしているため、ご自分がお金を持っておく当たり前の状態が実践できていない。少額でもご本人様が所持できるようご家族様と管理方法を話し合いながらお金を所持したり使えるように支援していきたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人様の希望を第一に受け止め相手方のお許しがある場合は家族や大切な人に本人自らが電話をしたりできるよう必ず支援を行っている。また言葉や表情を観察し「求め」を察する事ができる場合にも、職員が窓口となり支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>夜間トイレ使用時トイレ周りの照明を点けておく。個人に合わせた温度設定をする。昼間横になる時にはカーテンを閉め眩しくない様にしていく。壁飾りを作っている。2日に1回は掃除機をあてきれいにする。</p> <p>(外部評価)</p> <p>建物が企業の社員寮を一部改造したものであるため不便なところもあるが、廊下や階段には手摺りを取り付け、過ごしやすいう整備されている。リビングが少し狭いが、利用者のすぐそばに寄り添って過ごすことができる利点もある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビング内にはソファを置いていつでも腰を掛けて団欒を感じたり、気の合う方同士でお話をされたりしています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ご入居時にユニット畳若しくはフローリングどちらかを選択して頂いている。家具類、テレビ、布団、衣類等身の回りの全ての物品はご家族と相談し環境が許される限り本人の好みの物、使い慣れた覚えのあるもので揃えるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室は独立して生活ができる造りになっている。家具、布団、テレビ、趣味の物、家族の写真など利用者にとって大切な物をたくさん持ち込み、部屋ごとに違った雰囲気が感じられ、居心地良く過ごせる場所となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの身体機能及び安全・安楽を考慮した工夫や失敗を招くことのない環境整備を今後図っていく。</p>	